

Sea-Tac安全基準

1 ツアー催行の判断

- 1) ツアーにあたっては、当日早朝か直前の段階で、気象・海況を調べた上で催行可否を判断する。
- 2) 判断基準とするのは、天気予報・風向き風力・波高・雨量・ツアー内容・参加者の人数・年齢・熟練度などである。
- 3) 荒天の場合や荒天が予想される場合は、催行を中止、またはツアー内容・コースを変更する。

2 スタッフ

- 1) スタッフは、スノーケリングに堪能である者に限る。
- 2) スタッフは、レスキュー技術を学び、定期的にレスキュートレーニングを行う。
- 3) スタッフは、万に備えて、上級救命技能かそれに類する資格を取得している。
- 4) ツアー内容や参加者数に応じて、安全が確保できるスタッフ人数で催行する。
- 5) ツアー前に、スタッフ全員で内容や注意点について話し合う。
- 6) ツアー後にも、反省点・改善点について話し合い、共有化の上で改善する。

3 器材・装備

- 1) 参加者が安全快適に泳げるよう、器材を用意しておく。
 - ① 三点セット
 - ② ウエットスーツ
 - ③ ライフジャケット
 - ④ ビート板
- 2) スタッフには、参加者を補助するために、サーフボードを用意しておく。
- 3) 全ての器材は、常に使いやすいものを検証し、定期的に点検する。
- 4) 船上には、救急キットを常備、持ち運びができるようにしておく。
- 5) 緊急時にすぐ要所に連絡がとれるよう、船舶電話と防水携帯電話も備える。

4 定員

- 1) 乗り合いのボートツアーでは、最大人数を15名までとする。
- 2) チャーターボートツアーでは、最大人数を22名までとする。
- 3) ツアー内容や客層によって、その人数をより少なく制限する。

5 参加者

- 1) 参加者には、住所・名前・生年月日・緊急時の連絡先の欄がある名簿に記入して頂く。
- 2) 参加者には、遊泳力やスノーケリング経験の有無を告知して頂く。
- 3) 未経験者には、スノーケリングレッスンツアーへの参加を強く勧める。
- 4) 当日のツアー催行前に、健康状態を申告して頂く。
- 5) 過労・睡眠不足・飲酒の状態では泳がない。
- 6) ツアー内容によって、スノーケリング未経験者の参加を制限する。
- 7) ツアー内容によって、高齢・幼少の参加を制限する。
- 8) スタッフの指示に従わない、または、他に多大な迷惑をかけるとスタッフが判断した参加者には、下船して頂く。
- 9) 船酔いなどにより体調悪化が著しい参加者も、下船して頂く。

- 6 セーフティトーク
 - 1) 予約の段階で、ツアー内容やスケジュールを説明、海況が悪い場合についての了解を得る。
 - 2) ツアーにおいて、スタッフは、以下のセーフティトークを行う。
 - ① 天候と海況の説明。
 - ② 予定されるコースの説明。
 - ③ 船上での注意点。
 - ④ トイレの使い方。
 - ⑤ ライフジャケットの着方。
 - ⑥ 泳ぐときの注意点。
 - ⑦ イルカとの泳ぎ方。
 - ⑧ クジラの見方。
 - ⑨ ウォッチやスイムにおける自主ルールの説明。
 - ⑩ スノーケリングの仕方。
 - ⑪ スノーケリングにおいて予想されるトラブル回避の仕方。
 - ⑫ 停泊場所で泳ぐ範囲と潮の流れの説明。
 - ⑬ 流されたときの対処方法の説明。
 - ⑭ 海の生物の行動を妨げないこと。
 - ⑮ 参加者が説明を理解してるかどうかを確認。
 - ⑯ 不測の事態や不明の点があったら、スタッフに申し出ることを確認。
- 7 スノーケリングとスイム
 - 1) 泳ぐ前に準備運動を行う。
 - 2) バディシステムをとる。
 - 3) スノーケリング初心者は、ライフジャケットを着用する。
 - 4) 初心者は、水面での呼吸の練習をじゅうぶんにしてから、泳ぎ始める。
 - 5) スノーケリングのとき、必要に応じてスタッフが海に入って補助する。
 - 6) ドルフィンスイムでは、先頭にスタッフが入り、海中で参加者を案内する。
 - 7) 5名以上のときは最後尾にもスタッフが入り、参加者をワッチ、泳ぎを補助。
 - 8) 別のスタッフが、船上からワッチ。このとき、不測の事態にはすぐ救助に入れるように、器材も準備しておく。
- 8 事故発生時
 - 1) 事故発生時には、慌てず、まず、スタッフ同士で素早く状況を共有化する。
 - 2) キャプテンの指示のもと、スタッフが手分けして、迅速に、的確な対応をとる。
 - 3) 溺れていると思われる人を見つけたとき、決して、他へ告げずにスタッフひとりの判断で救助に行ってはならない。
 - 4) 決して、浮き具を持たずに救助に向かってはいけない。
 - 5) 緊急連絡網を参照して、速やかに要所に連絡を入れる。
- 9 傷害保険と賠償責任保険に加入している。
- 10 安全対策は、毎シーズンごとにスタッフ間の協議によって内容を見直し、改善する。